

夏…

神宮の聖域にヒグラシの涼しげな声が響き

五十鈴川の瀬音が心地よい…

ふるさとの風

～文月～



— 簡素明澄 —

山紫水明の国、日本 —。

伊勢神宮の建築は至高の造形美として広く世界に知られる。

ドイツの有名な建築家ブルーノ・タウトは世界に初めて神宮のすばらしさを紹介している。

「伊勢は世界の建築の王座である。芳香高い美しい檜、屋根の萱、これらの単純な材料で、他の追随を許さぬまでによく構造と融合している。しかも形成が確立した年代は正確に分からず、最初に作った人の名も伝わらない。おそらく天から降ってきたのだろう。」

唯一神明造の社殿は簡素で、限りなく美しくしかも荘厳である。

大御神をまつる御正殿は四重の垣根に囲まれ、更に瑞垣が巡らされている。

その空間を内院といい、そこは神宮で最も高貴で神聖な場所。御敷地に美しく敷きつめられた白い石と黒い石。白い石は「御白石」とよばれ、神に近い聖なる場所に—。

一方「清石」とよばれる黒い石は御敷地にコントラストをつけ建物をひきたたせる。

遷宮のたびごとに取り替えられる御白石は、旧神領民によって数年前から採取され遷御の年の夏、盛大に「御白石持ち行事」として奉獻される。

文正元年 三月八日、移_二大司_一令_レ置_二白石於内院_一、造替遷宮度為_レ例、然未_二殊依_一將軍詣_一也

— 神朝遺文 —

神の恵みゆたかな宮川。その清らかな流れにゆったりと丸められた、温かみのある純白の川石。

旧神領民は御白石を一人一人手に持ち、御正宮の奥まで参入して奉獻し、檜の香もかぐわしい神殿を拝する事ができるのである。

式年遷宮により新しく生まれ変わった神殿と御敷地 —

そこにはすべての空間に調和し、簡素明澄が織りなす極限の美しさが存在する。

平成二十五年 真夏の盛典

神領民の真心と祈りのこめられた

純白の聖なる石、御白石が神の元にとどけられる。

➤ 伊勢市史 第八巻 民俗編 (伊勢市／編 伊勢市 L243／イ／8)

➤ 瑞垣 161号 (神宮司庁／編 神宮司庁)

➤ 伊勢神宮の衣食住 (矢野憲一／著 東京書籍 L174／ヤ)

➤ 宇治山田市史 上巻 (宇治山田市役所／編 国書刊行会 L243／ウ／1)